



Return of Happiness.

～Convallisに咲く子供たち～

K04093 長谷川慈

Beginning

古民家再生と山村留学による“むらおこし”

過疎・高齢化は、山村の集落において地域社会の機能や保存すべき集落景観の維持を困難にする原因の一つである。日本各地で同じ問題が発生している。

今、残すべきものを見極め故郷を守る努力をすべきではないだろうか。

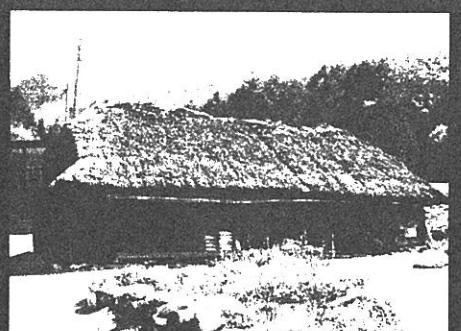


Site

山梨県笛吹市芦川町上芦川

上芦川は、芦川町の四集落の東端、川上に位置する。谷間の急峻な山地斜面を活かして築いた石垣と水路、茅葺古民家が訪れた人の目を惹く山村である。それらの景観要素は、農山村における日本の原風景を彷彿とさせる静かな集落である。

また、本州随一のすずらん群生地としても有名で、豊かな自然に囲まれた地域である。



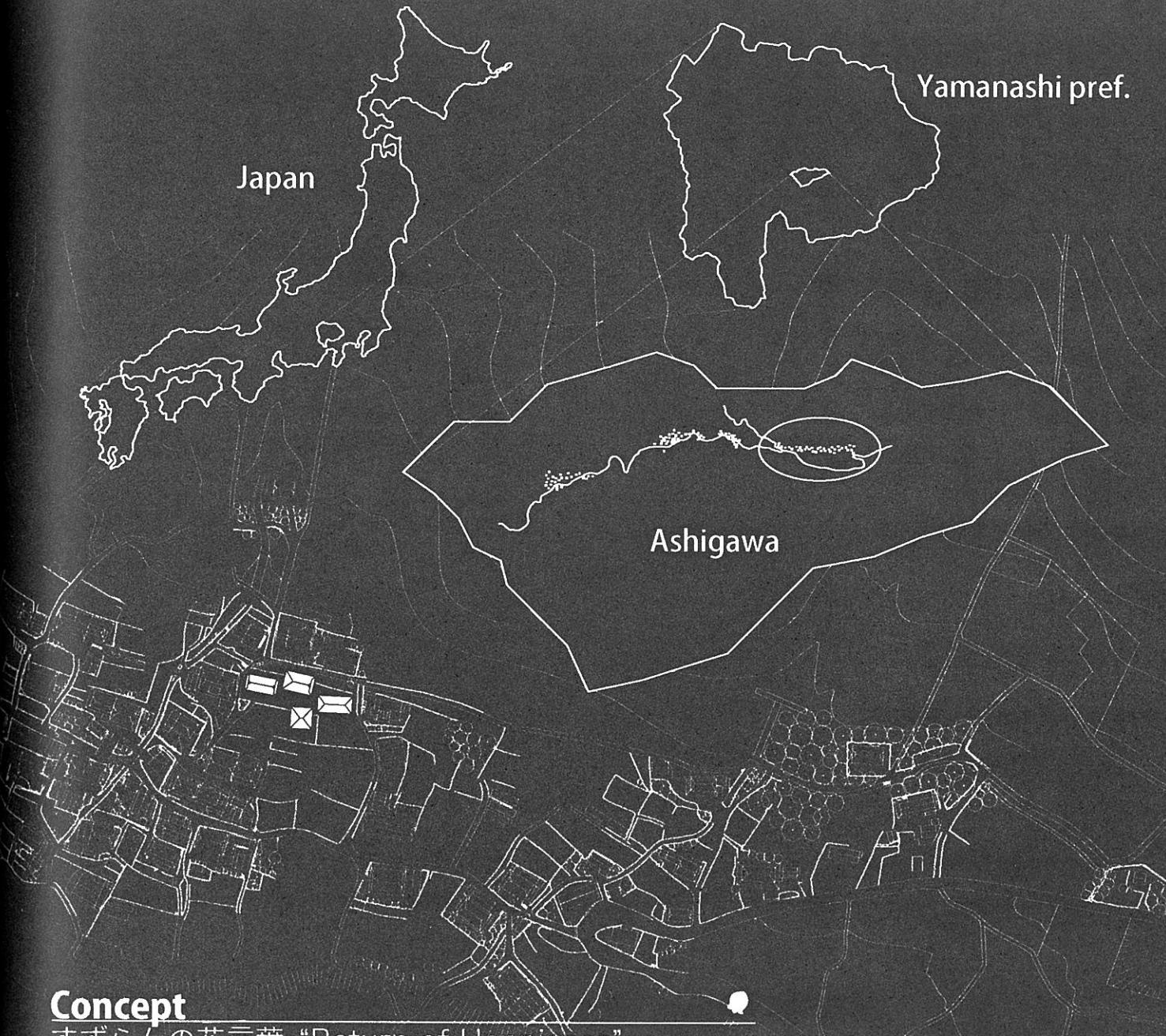
Problem

過疎・高齢化という問題

かつて芦川は、養蚕や炭焼、こんにゃくの生産で栄えた。しかし、最盛期に2000人を超えた人口は、現在約500人。高齢率17.3%の全国平均を大きく上回る52%と過疎・高齢化が進んでいる。

生徒数約30人の芦川小・中学校では、過疎化が原因の統廃合問題に直面している。

また、集落景観の構成要素である古民家が管理しきれず朽ちていくという問題もある。



Concept

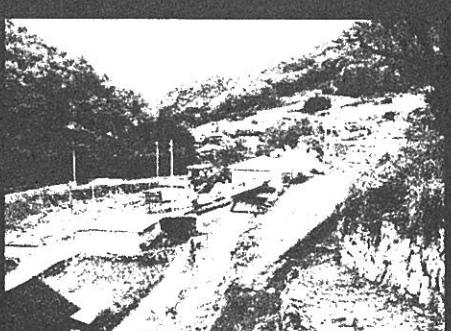
すずらんの花言葉 “Return of Happiness”
という言葉に願いを託して

過疎・高齢化の進んだ芦川に子供が戻り、芦川に幸福が訪れるように....

谷間に、明るく元気な子供達が咲くように....

子供達は、都市部では体験できない自然や暮らし、人との繋がりを芦川で経験する。

やがて、山村留学の為の寮が子供を介して芦川を繋いでゆく。



Survey

集落景観の保存・再生に関する調査

・調査内容

芦川の四集落において、配置図及び古民家の平・断面図の実測調査を行った。それを元に各図面を CAD におこし、芦川地区の民家の現状把握を行った。

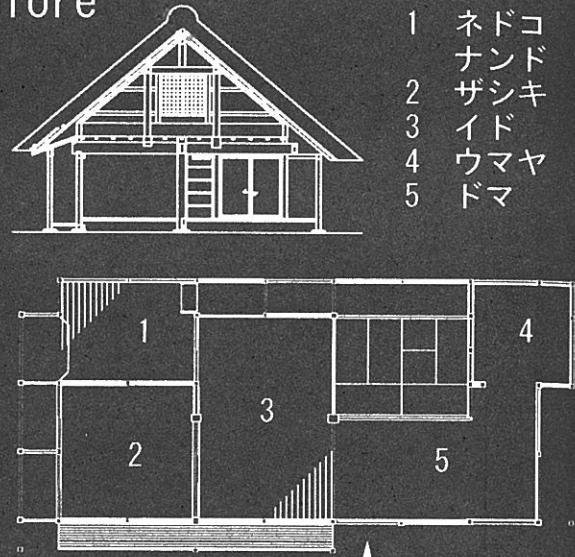
・調査結果

古民家や石垣、水路が集落景観の重要な構成要素になっている。

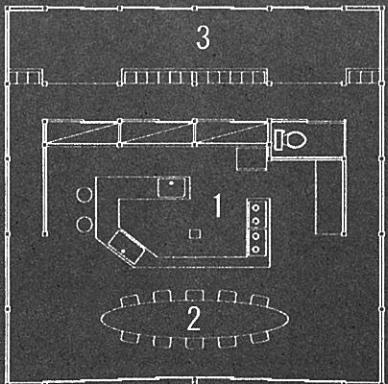
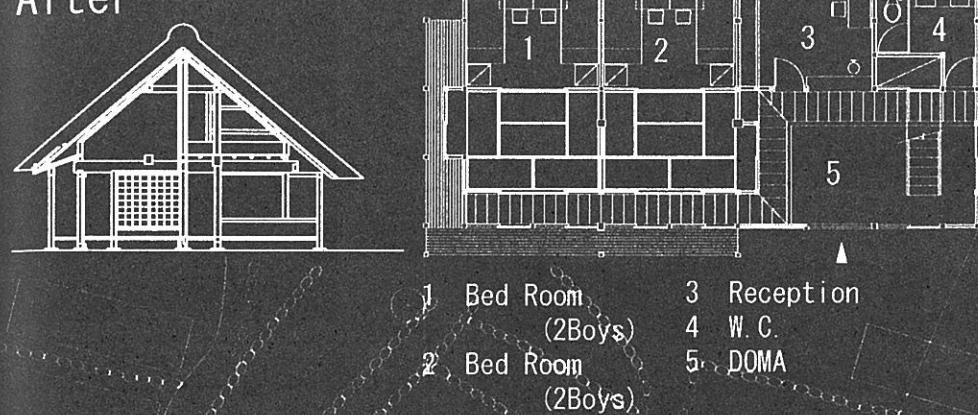
古民家は、空家が多く適切な管理がなされていない。

大黒柱の編年により大黒柱の存在が薄らい

Before



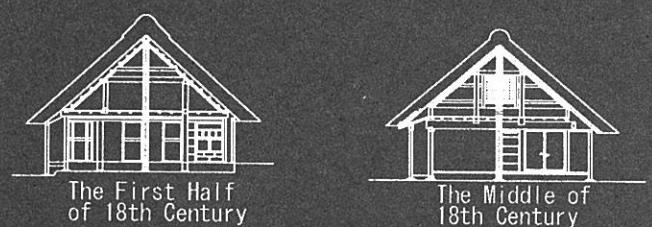
After



Chronicle

大黒柱による編年

時代を経るごとに大黒柱が通し柱でなくなり、かつ左右に揺らぎはじめる。寮の設計では、原点回帰を企図し、大黒柱を通し柱にすることにより構造的な支えとし、かつ子供たちの精神的な拠所となる大黒柱を各棟に設計する。



The First Half
of 18th Century



The Middle of
18th Century



The First Half
of 19th Century



The Late of
18th Century



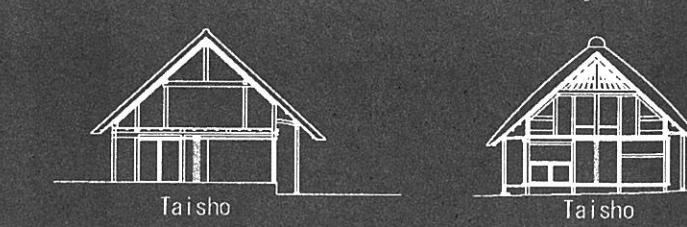
The End of
19th Century



The Late of
19th Century



Meiji 30



Taisho

実測断面図 全 16 棟 S:1/300

Project

古民家再生による山村留学の為の寮

芦川の四つの集落に対応するように、四つの棟で構成される。

一棟は、調査で実測をした十八世紀中期の茅葺古民家(前頁左下の写真)を寮に再生する。

古民家再生により、古民家の有効利用の方法を提案する。また、過疎化で子供の少なくなった芦川に若さを取り戻すため、寮制の山村留学制度を提案する。

